



横須賀高校 70 分授業スタート！ Time schedule changes every week (A and B week).

令和4年度 SSH委員の紹介

特に現1・2年生は Prin I II III が必修科目となります。
課題研究を基礎～応用～完成へと発展・深化させていこう！

1 年	2 年
運営班・取材班	運営班・取材班
1 山口和穂・藤田陽斗	1 黒澤あすか・浅井結
2 須藤帆乃香・木村優星	2 高橋勇氣・蛭田楠央
3 木下広登・池田陽向	3 大内友貴・川崎蒼斗
4 山口将吾・亀山康成	4 三浦望実・江澤実希
5 佐藤大地・秋本想太	5 近藤慶明・熊谷優斗
6 梅川天舞・田中志歩	6 小林秀悟・高橋勇陸
7 赤澤歩実・長山漣	7 福田聖弥・下里浩太
A 週、B 週の授業時間帯は、原則として以下の通り。 計画性・進捗管理・実行力などいろいろ大切です！	
	Principia I
A 週	木曜④、⑤時間目
B 週	木曜⑤時間目
	Principia II
	火曜⑤時間目
	火曜④、⑤時間目

《代表》



2 年 1 組の浅井結です。これから皆さんの SSH の活動に少しでも役立てよう、努めてまいります。課題研究は大変なことも多いかと思いますが一年間がんばっていきましょう！ よろしくをお願いします。

《副代表》



2 年 1 組の黒澤あすかです。私は初めて SSH 委員会に所属しましたが、皆さんがスムーズに活動できるよう、努めていきます。難しいことでも互いに協力して、楽しく興味をもって探究活動しましょう！

「令和4年度 Principia I オリエンテーション」が行われました！

4 月 14 日、横須賀市文化会館にて「令和4年度 Principia I オリエンテーション」が行われました。第一部では2年生の代表選出5グループによる口頭発表を聞き、第二部では「研究機関紹介ビデオ」を視聴しました。この紹介ビデオは、各研究機関の取り組みや特徴を分かりやすく説明する内容で、2年生の SSH 委員の先輩方が丁寧に制作して下さったものでした。今回私は初めて司会進行を務めさせて頂き、文化会館という立派な会場の壇上に立って発言するのはとても緊張しましたが、先輩方が堂々と発表されていたのでだんだんと落ち着くことができました。今回、このような機会があったことで研究機関について詳しく知ることができました。SSH 委員 1 年 1 組 藤田 陽斗



私は4月初めのオリエンテーションによって、SSHの探究活動に対する興味がさらに深まりました。私が特に注目した点は、研究内容の深さです。様々な研究が行われていて、それぞれが理由をもって研究の推測や予想をして取り組み、研究から分かったことを通して考察や次の課題について繋げていると感じました。また、研究機関の協力によって、高度な技術を用いた研究が行われていることも分かりました。私は実験や調査の結果から考察し、次の課題を考えることで研究がより深くなり、多くのことを学べると考えました。

SSH 委員 1 年 3 組 池田 陽向

今回のオリエンテーションで私が特に印象に残っているのは、第二部の「研究機関紹介ビデオ」です。私は静止画を繋げて流すだけなのだと思います。しかし実際には、インタビュー形式で様々な情報を紹介するものや、初めてPrincipiaを行う私たちの視点になりきり、会話形式で楽しく説明するものなど、分かりやすく、興味を持たせる工夫がたくさんされていました。どの紹介ビデオもそれぞれ研究機関の良さを全力で伝えようとする、先輩方の強い気持ちが感じられました。これから研究活動に取り組むことが楽しみです。

SSH 委員 1 年 2 組 木村 優星

私は「Principia I オリエンテーション」を通して感じたことが3つありました。1つ目は多くの機関が私たちの探究活動に協賛して下さり、ありがたいということです。企業の他、大学や博物館からも指導して頂ける点も驚きました。2つ目は自由度が高いということです。興味のある分野を選択でき、研究によってさらに興味を深められると思いました。3つ目は分野が広いということです。先輩方の発表を聞き、医学、生物、宇宙など多岐にわたって研究を行えることを知りました。Principiaを通して視野を広げていきたいです。

SSH 委員 1 年 6 組 田中 志歩



祝 2年連続！さすが横高！！



Global Classmates Summit 2022 に本校生徒が選抜！

アメリカで日本語を学ぶ外国人高校生たちと日本の高校生たちが教育用 SNS でつながり、表現力、語学力、国際性などを育むことを目的としたプログラム。この「Global Classmates Program」に本校英語部の生徒が参加し、3年3組飯田愛香さんが荣誉ある「Global Classmates Summit 2022」に選抜されました。横須賀高校では昨年度も坂口未羽さんと鈴木千尋さん（英語部・74期生）が選抜されており、2年連続選抜の素晴らしい実績に繋がりました。

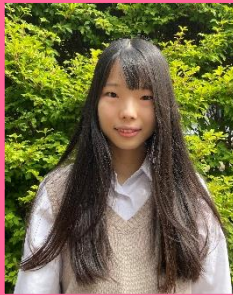
《選抜までの流れとサミットプログラムの概要》

英語部は「Global Classmates Program」に参加し、アメリカの高校生とオンライン交流しています。日本とアメリカの学校が1校ずつペアになり、活発な交流で国際理解を深めます。



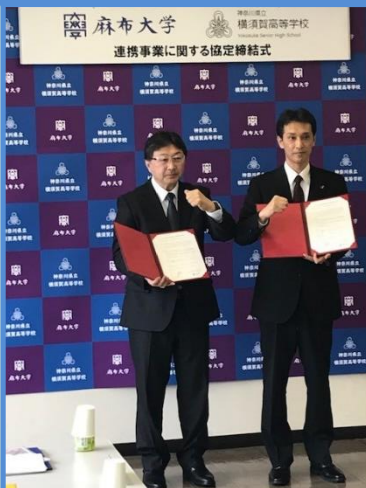
この活動で秀でた活躍を認められた生徒が「Global Classmates Summit」に参加できます。しかも選抜されるのは前述のプログラムに参加した生徒約2,000名のうち、日本側とアメリカ側からそれぞれ6～8名だけ！7/16～8/12の期間において合計10日間に渡り、様々な特別プログラムを経験することができます。

英語部 飯田愛香さんにお話を聞きました！



私は2年間グローバルクラスメートプログラムに参加させて頂きました。教科としてではなく、ツールとして英語を使えたことに感動しました。アメリカのクラスメートは私と似ている部分がたくさんあり、同じ“人”であると感じました。最後には、LINEを交換しプログラムが終わった後もお互いの文化を教え合ったり共通の趣味の話をしたりして、アメリカに“友達”と呼べる存在ができました。国境を超えた友達にはいつも刺激を受けます。私は国際問題等について、違う国の方々と一緒に考えて一つのことを成し遂げたいという思いがあったので、このサミットに選んで頂いた時は本当に嬉しかったです。サミットでは私が高校生活で頑張ってきたことの集大成となるように、私がこのサミットを作る気持ちで参加したいと思います。そして学んだことを横須賀高校のみなさんに胸を張って報告できるように頑張ります。

麻布大学と本校との協定締結式が開催されました



令和4年度、麻布大学獣医学部が本校のSSH事業に協力して下さることが決定しました。麻布大学は、横須賀高校が先進的な理数教育を実施するために必要な指導方法や教材の開発等、様々な面で協力して下さいます。横高の生徒は高校段階において大学教育の早期履修体験ができる等、自己の幾多の能力を伸長させるチャンスがあります。高校と大学が連携し、共同研究の推進や国際性の育成、生徒の創造性・独創性を高める取組等について同意を頂けたことに、心より感謝申し上げます。左の写真は、令和4年4月21日に麻布大学本館で行われた、麻布大学と横須賀高校との協定締結の様子です。麻布大学の川上泰学長と横須賀高校の鑑校長が、連携事業に関する約束の文書にサインし、握手の代わりに肘タッチをされています。今回、締結式に出席したSSHリーダーの柴田先生にメッセージを頂きました。

【柴田先生より】

麻布大学「出る杭を引き出す教育プログラム」と、横須賀高校「スーパーサイエンスハイスクール」は、ともに文部科学省から採択された事業です。それぞれの特色を生かし、高大連携を図りながら科学技術人材の育成を目指します。麻布大学獣医学部の課題研究はPrincipiaⅡで履修可能です。この機会を是非活用しましょう！

今後の活動予定

Principia I

5/25(水)～5/27(金)…Global Village Program (横須賀高校)
6/2(木) B50×1…研究機関リサーチ準備/事前研修課題配付
6/9(木) A50×2…研究機関リサーチ
6/16(木) B70×1…研究機関リサーチ
6/23(木) A70×2…研究機関リサーチ
6/30(木) B70×1…事前研修課題のまとめ・提出
7/7(木) A50×2…研究機関配属決定/研究機関ごとの活動
7/14(木) A50×1…夏休み課題について (夏休み前最終日)

PrincipiaⅡ

5/24(火)～5/27(金)…2年研修旅行 (北海道)
5/31(火) B50×2…課題研究
6/7(火) A50×1…課題研究
6/21(火) A70×1…課題研究
7/5(火) A50×1…課題研究
7/19(火) A50×2…課題研究 (夏休み前最終日)

PrincipiaⅢ (スケジュール一例)

6/2(木)…SSH生徒研究発表会(神戸)エントリー締切
7/1(金)…バイオサミット in 鶴岡エントリー開始
8月中旬…高校生理科研究発表会エントリー開始



75 期(5/23~5/26)・76 期(5/24~27)研修旅行実施！ in Hokkaido

昨年5月に予定されていた75期研修旅行。実施までには紆余曲折ありましたが、今回2・3年生が同時期に出発し、全員無事に研修旅行を終えることができました。研修で得たことや友達との思い出はそれぞれの胸に刻まれたと思います。以下は、75期・76期のSSH委員が研修旅行の記事をまとめたものです。77期生は、来年度をお楽しみに！

「有機農業を体験」



北海道の豊かな自然の中で、オーガニックについて学ぶことが出来ました。2日間に及ぶ農業体験(アスパラガスの収穫など)で、農薬を使わないで売り物になる野菜を作ることがどれだけ大変か身に染みて理解することが出来ました。現地の道の駅ではそんな苦労を知ってか、その野菜を作った農家の方の写真や、最も美味しい食べ方などが書かれており、野菜と農家さんに対する、流通に関わる全ての人の温かな思いを感じました。農家の方々にお話を伺った際には皆さんが有機農業に対してやりがいを持っていることや、北海道での生活に対して充実感を感じていました。五感を全て使って学べたことがとても良かったと思います。SSH委員 2年4組江澤実希

「北海道の料理」

私たちは、5月24日から5月27日の4日間北海道へ研修旅行に行きました。コロナ禍の状況でしたが、行くことが出来て嬉しかったです。その中でも北海道で食べた料理が美味しかったです。写真は二条市場という所で食べた海鮮丼です。刺身の色が鮮やかで新鮮だったのでとても美味しかったです。北海道に行った際は是非一度食べてみてください。他にも北海道ではジンギスカンやお土産でも有名な白い恋人のソフトクリームなどを食べました。どれもとても美味しかったです。北海道には食べ物以外にも綺麗な景色やアクティビティなどたくさんの魅力があってとても楽しい4日間でした。是非、機会があればまた行きたいと思いました。SSH委員 2年5組熊谷優斗



「高さより怖いものとは」

私たちは3日目、ニセコ町にあるアドベンチャーパークに行ってきました！ここには樹上に設置されたアクティビティがあり、専用のハーネスを装着して高さ6~8mほどの所を、綱渡り等をしながら順番に攻略していく施設です。最初はあまりの高さに恐怖心が勝りますが、コースの半分程度まで進むと、段々と高さより揺れの方が怖くなってきました。例えば、綱渡りをするよりも、ブランコのような足場を渡っていくステージの方が前後左右思いも寄らぬ方向に足場が揺れてしまうため、とても足がすくみました。一方で、爽快なエリアもありました。森の中でのジップラインはかなり爽快でした。どれもとても楽しいので、高い所に自信がある方はぜひ行ってください！SSH委員 2年6組 高橋勇陸



「最高の思い出」



75期は一年生の時も二年生の時もコロナウィルスの影響で宿泊研修や研修旅行がなく、入学する前にイメージしていた学校生活と違うなと感じていた人がたくさんいると思います。そんな中、度重なる延期の末、やっとの思いで行けたこの研修旅行。受験期で旅行に行くのに抵抗も多少はある中、この時期にでも行くことができて本当に良かったと、心の底から思いました。逆に私にとっては受験から一旦離れ、心を休めるのにいい機会でした。また、クラス内での絆もより深まった気がします。文化祭の劇の前に行けて良かったと感じています。写真は小樽の旧国鉄手宮線を撮ったものです。歩いただけですが、なんだか心が落ち着きました。SSH委員 3年1組大森ゆすら

「札幌紀行」

研修旅行の3日目に私たちは留学生と共に札幌市内を観光しました。会話は英語のみと厳しかったですが、それすらも楽しい1日となりました。最初はぎこちなかったコミュニケーションも、お昼過ぎには上手とは言えないまでも自然にできるようになっていました。テレビ塔では札幌市を一望しました。その次に訪れた札幌時計台では今でも動き続けている大きな振り子時計の裏側を知り、何枚もの大きな歯車が回っていることに興奮しました。何人かが解説のおじさま方に捕まっておもしろかったです。写真は旧市庁舎前で撮影したもので、北海道とは思えない暑さと長時間歩いた疲れも感じさせない思い出の一枚になりました。SSH委員 3年2組岡本雄太郎



「小樽の魅力」



運河やお寿司で有名な小樽市について紹介します。小樽市は札幌市の隣に位置しており、交通の便が良く、観光地としても適した地域です。私がこの街に魅力を感じた部分についてお話します。まず、通りの景観です。運河沿いの倉庫が有名ですが、私は大通りから一本奥に入った道で見ることができる、ガラス小物類のお店等にレトロな雰囲気を感じて惹かれました。次に食事についてです。写真は大ぶりのホッケの天井と網で焼いたホタテ、稚貝の味噌汁です。海の前にある青塚食堂というお店でいただきました。私は旅行の中で一番美味しいご飯だったと思います。他にも別のお店で海鮮丼もいただき美味しかったです。海産物が好きな方は小樽に行くことをお勧めします！SSH委員 3年6組青木紀里香



令和4年度 SSH 生徒研究発表会 (in 神戸) に参加しました！



2022年8月3日/4日に開催されたSSH生徒研究発表会(会場：神戸国際展示場)に横須賀高校代表PrinⅢハマダンゴムシチームが参加しました。本チームはPrinⅠで横須賀市自然・人文博物館に所属し、PrinⅠ・Ⅱ・Ⅲを通して継続的に研究を行ったチームです。3年間で「研究の基礎・応用・完成・発信」のステップを見事に成し遂げたハマダンゴムシチームの皆さんに話を聞きました。

【発表要旨】海岸に生息するダンゴムシの一種であるハマダンゴムシについて、その体色と模様色の組み合わせと生息環境との関係性を研究してきた。採集、飼育、色の違う砂を利用した実験の結果、黒色の個体が多く、それらには目で判断して黒い砂を好む様子が見られた。また色相の違いは判断できるが、明度の違いは判断できないと推察された。

私たちハマダンゴムシチームは、1年生のときから同じテーマで研究を行ってきました。しかし、プリンキピアⅡからプリンキピアⅢになる節目で一人が抜けてしまい、今まで共にやってきた仲間だったので悲しかったのですが、一人で研究をしていて本気で神戸を目指していた人をチームに誘って新しいメンバー5人で研究を続けました。プリンキピアⅢではメンバー全員が神戸に向けて一丸となって研究を進めていたので、神戸に行けると決まった時には頑張ってきたことが報われた、と嬉しかったです。本当に夢みたいでした。実際の神戸の大会では一人が行けなくなってしまい4人で行くことになりましたが、共に研究した2人の思いを背負って発表しました。3年3組竹田陽介



私達が発表を行った神戸国際展示場は3つのホールに分かれており、そのうち1つを使用して研究発表が行われました。高校はブースごとに分かれており、発表と見学の時間が交互にありました。各々の高校で実験器具や動画を持ち込み発表していたため、分かりやすい発表でした。私達のブースも様々な高校の生徒や引率の先生方、大学の教授方が見に来て下さり、内容に関する質問をして頂きました。研究内容以外にも、各高校と交流することができたので、有意義な時間でした。2日目は前日の研究発表で選出された代表校6校が、パワーポイントを用いて全体に向けて発表を行ってました。どの代表校も興味深い研究をしており、いい刺激となりました。3年6組山田純菜



私が3年間の中で印象的だったのはハマダンゴムシを採集することです。私は元々海や生物が好きだったのですがハマダンゴムシについては何も知識がなかったので、フィールドワークで初めて彼らを見た時の可愛さに衝撃を受けさらに興味深くなりました。研究機関の方々のお話を聞きながら取り組んできたおかげで、ハマダンゴムシの知識はもちろん、科学としての実験の進め方や論文のまとめ方も同時に学ぶことができてとてもいい経験でした。3年間沢山時間をかけて好きな事について研究し、全国大会に進むことができ、本当に感謝しています。ありがとうございました。3年5組蓮井瑠渚

わたしはハマダンゴムシの飼育を長期的に出来るように様々な工夫を行いました。ハマダンゴムシは雑食なので餌は何を与えても食べてくれ、その面では楽でした。しかし、初めて飼育した時はうまく飼育することが出来ずに、2ヶ月で全滅させてしまいました。その後はその経験を生かして餌を毎日変えたり、ハマダンゴムシは夜行性なので飼育ケースに仕切りを作り明かりを防いだりして、ハマダンゴムシにとっての快適な環境作りを実現しました。今回の研究を通して、試行錯誤してもものごとに取り組むことの大切さを学ぶことができました。3年4組橋本徹

私がハマダンゴムシの研究に加わったのはPrinⅢからで、Ⅰ、Ⅱでは別の研究をしていました。このチームに誘ってもらった形でPrinⅢを続けることにしました。PrinⅢは授業外での活動となるので研究期間が短く、研究チームに参加した時には自分に何ができるかと不安でした。しかし二年間の研究の経験とチームメンバーのサポートもあり、実験の結果から新たな仮説を発見をしたり、今まで触れたことのない生物に触れたりでき、PrinⅢまで続けた甲斐があったと思っています。研究の成果が実り神戸の大会への出場が決まった時はとても嬉しかったです。この約半年を通して改めて探求の楽しさ、協力して課題を追求することへのやりがいを感じる事が出来ました。3年3組米山妃奈





第16回高校生理学研究発表会（主催：千葉大学）に3チーム出場

2022年9月24日、千葉大学工学部西千葉キャンパスにて第16回高校生理学研究発表会が開催され、PrincipiaⅢの3チームが口頭発表を行いました。チームはそれぞれ分野は違いますが課題研究に懸けてきた気持ちは共通しており、決意や情熱のみならず発表でした。今回この発表会を目指して努力を重ねてきた6人に話を聞きました。

サステナブルな三浦半島 ～貝殻のもとらす地域経済の活性化～



私たちは三浦半島の海岸に落ちている貝殻に着目し、これを有効活用し地域経済を活性化することを目指しました。貝殻が炭酸カルシウムの代替品になるかを調べる実験を行い、最終的に実際に貝殻を資源として活用する方法を考える段階まで来しました。研究で最も苦労したのは貝殻から発生した泡を抑えることでした。毎日のように実験を重ね、模索し続けたことは大変ではあったけれど着々と自分たちの手で答えを手繰り寄せる感覚が楽しかったです。今回の発表で頂いたご意見を参考にして、更に研究を深めたいです。3年2組 野澤 仁

自分がPrincipiaⅢで4月から活動していく中で一番強く実感したことは、他者との意見交換や議論の大切さです。研究に際して一つの事象を一人の視点のみで観察し考察するだけでは偏った研究になってしまいます。しかし、自分たちの研究では三人で意見を交わして議論を深めることができ、多面的な検討を行うことができました。もう一つ研究を通して自分が個人的に重要だと思ったことは「FESTINALENTE(ゆっくり急げ)」で、古代から伝えられてきた言葉です。時間や余裕がなくつい焦ってしまうようなときも結論を導いたり考察したりするときは、研究の動機や目的に立ち返って、最初に目指していたことは何かを考え直すことが非常に大切だと思いました。研究に限らず全てに言えることだと思います。これからも次の発表に向けて、さらに邁進していきます。3年2組 帖佐 優太



自分がPrincipiaⅢで4月から活動していく中で一番強く実感したことは、他者との意見交換や議論の大切さです。研究に際して一つの事象を一人の視点のみで観察し考察するだけでは偏った研究になってしまいます。しかし、自分たちの研究では三人で意見を交わして議論を深めることができ、多面的な検討を行うことができました。もう一つ研究を通して自分が個人的に重要だと思ったことは「FESTINALENTE(ゆっくり急げ)」で、古代から伝えられてきた言葉です。時間や余裕がなくつい焦ってしまうようなときも結論を導いたり考察したりするときは、研究の動機や目的に立ち返って、最初に目指していたことは何かを考え直すことが非常に大切だと思いました。研究に限らず全てに言えることだと思います。これからも次の発表に向けて、さらに邁進していきます。3年2組 帖佐 優太

自分がPrincipiaⅢで4月から活動していく中で一番強く実感したことは、他者との意見交換や議論の大切さです。研究に際して一つの事象を一人の視点のみで観察し考察するだけでは偏った研究になってしまいます。しかし、自分たちの研究では三人で意見を交わして議論を深めることができ、多面的な検討を行うことができました。もう一つ研究を通して自分が個人的に重要だと思ったことは「FESTINALENTE(ゆっくり急げ)」で、古代から伝えられてきた言葉です。時間や余裕がなくつい焦ってしまうようなときも結論を導いたり考察したりするときは、研究の動機や目的に立ち返って、最初に目指していたことは何かを考え直すことが非常に大切だと思いました。研究に限らず全てに言えることだと思います。これからも次の発表に向けて、さらに邁進していきます。3年2組 帖佐 優太



4月から開始したこの研究も、外部で発表できる域へと至ることができ、安堵しています。手探り状態に陥ることも多かったのですが、担当して頂いた先生をはじめ多くの方々に助力頂き、そしてチームの仲間

3人で活動できたからこそたくさんのことを引き寄せ、ここまで達することができました。とはいえ、今回の発表会も通過点の1つにすぎません。これで終わりではなくこれが新たなスタート地点になります。外部との接点はまだまだ残っているのでここで気を緩めず、更なる高みをも見据えて尽力していきます。3年2組 吉浦 颯海

運動部活動における背筋力
測定の結果とその傾向
～横須賀高等学校における調査～

まず、この研究に協力していただいた運動部の皆さんをはじめとする多くの方々に心より感謝申し上げます。研究発表会では、アドバイスも受けつつ、高校生らしく、面白い研究だという評価を受けることができました。常に高校生である自分ができることは何かと考えた結果が表れたのかもしれませんが。受験や文化祭等と並行して、1人で研究を行うことは心身ともに大変ではありましたが、今回の発表を通してやりがいを感じることができました。大学進学後も研究活動を続け、精進していきたいと思います。3年1組 大森ゆすら

モノが等しい条件の集合論的
解釈 ～図形への応用～

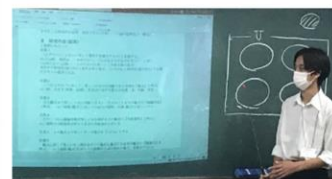
今回私は、モノ同士が部分的または全体的に等しくなる条件の成立条件を集合論を用いて表すという研究をしました。具体的には、複数のモノに対する議論を一つのモノに対する議論に置き換え、議論の簡素化を図りました。発表会では、大学の先生から意見を頂き、新たな視点を獲得することができました。私以外にも、10グループほどの発表を見ました。特に印象に残っているのは「数理存在論～もの本質を求めて～」という研究をしたグループで、あらゆる概念を図にするとするということもユニークな発表でした。

今回私は、モノ同士が部分的または全体的に等しくなる条件の成立条件を集合論を用いて表すという研究をしました。具体的には、複数のモノに対する議論を一つのモノに対する議論に置き換え、議論の簡素化を図りました。発表会では、大学の先生から意見を頂き、新たな視点を獲得することができました。私以外にも、10グループほどの発表を見ました。特に印象に残っているのは「数理存在論～もの本質を求めて～」という研究をしたグループで、あらゆる概念を図にするとするということもユニークな発表でした。

第14回マスフェスタにも出場！
4つ目の三角形の合同条件
2022年8月27日：大阪府立大手前高校にて

マスフェスタ(大阪)では、高校生理学研究発表会(千葉)で発表した論を用い、私自身が中学生の時に考えた三角形の合同条件を証明しました。結果的にはその

合同条件は『両意の合同』というもので、すでに存在している合同条件ではあったものの、学びを深める良い機会になりました。大会で出会った他県から来ている学生と大阪城に立ち寄り、連絡先を交換したりしたもの貴重な体験となり楽しかったです。3年6組 岸本 亮太



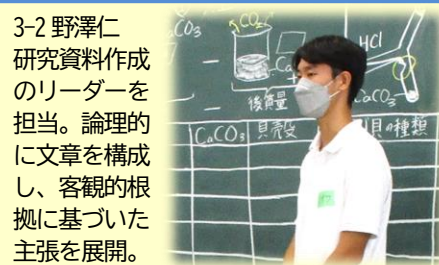


第16回高校生理科研究発表会(主催:千葉大学)にて奨励賞受賞

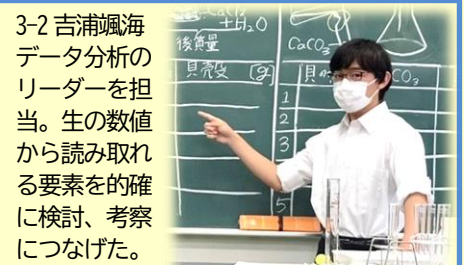
2022年9月24日開催「第16回高校生理科研究発表会」においてPrinⅢ野澤仁さん・帖佐優太さん・吉浦颯海さんの研究チームが見事に奨励賞受賞を果たしました。今年度の応募総数は1都16県60校から279件であり、受賞総数は37件、うち奨励賞は28件でした。特に本チームはPrinⅠ・Ⅱでの研究を離れ、PrinⅢでメンバーを結成して新規の研究を始めたチームです。今回、目標の「タイトル獲得」を実現した3人に話を聞きました。



3-2 帖佐優太
中高連携科学教室のリーダーを担当。横須賀市立長沢中学校との共同実験を実施し、全体を主導。



3-2 野澤仁
研究資料作成のリーダーを担当。論理的に文章を構成し、客観的根拠に基づいた主張を展開。



3-2 吉浦颯海
データ分析のリーダーを担当。生の数値から読み取れる要素を的確に検討、考察につなげた。

この記事を読んでいる多くの人は、「自分には関係のないことだ」と感じていると思います。自分が4月から約半年間活動してきた中でみなさんに伝えたいことは、「真に必要なのは情熱」ということです。もちろん知識などほかの要素も必要になってきますが、Principiaの仕組みの上なら、同じグループの仲間たちと意見を出し合うことも、担当の先生にご助言をいただくこともできます。かけた情熱の分だけ、必ず成果になって返ってくると実感しました。

私たちはこの半年間で数多くの実験など様々な準備を重ねてきました。3年生ということとでそれぞれが部活や勉強で忙しい中、さらに研究を行うことは非常に大変で、あつという間の日々であったと同時に毎日が濃密に感じられました。この経験は大学での研究やその先で必ず恩恵をもたらすと信じています。熱心に研究に取り組むことでのみ得られるものが必ずあります。一、二年生や未来の横高生の皆さんも積極的に研究に取り組んでみてほしいと思います。

当初から目指していた「研究発表会でのタイトル獲得」を本当に実現させることができ、嬉しさはあれど、その一言では言い表せないものを感じました。ここに至るまでの道りは長く、先の見えぬ状態で進まなければならない時も多くありました。しかし答えのない課題と対峙しては思考し行動する過程は、ただ勉強しているだけでは得ることのできない経験となります。一、二年生の皆さんも難しいからと諦めることなく、未知に挑み続けてください。

高校での挑戦が、その先の自分をつくる。

皆さんは以下の項目に関心がありますか？

- ☒ 横高以外の生徒とも知り合い、互いに高め合って科学への興味や友情を深める。
- ☒ 自分の実力や適性を知り、磨いていくことで進路の方向性を見定める。
- ☒ 興味のある課題研究に取り組み、その研究成果や実績を大学受験に活かす。



毎年、科学に関するコンテストが多数開催されています。幅広い分野の研究で挑戦でき、自分次第で様々な経験を得ることができます。また、日本の大学の多くがコンテストの実績を入試で評価する特別選抜（総合型選抜）を導入し、その枠は年々増加しています。科学技術コンテストには教科・科目に対応した「科学オリンピック」と、自由な発想で個人やチームでも参加できる「課題系コンテスト」があります。特に得意分野で挑戦したい人、何か新しいことに挑戦したい人、科学が好きで挑戦したい人は個性を活かしてチャンスを増やしてください。Principiaでの探究活動が進路実現に繋がります！詳しくは担任の先生やPrincipia担当の先生またはSSH担当柴田先生まで。

《コンテストから大学へ特別選抜などの制度が用意されている大学》 2021年12月現在 科学技術振興機構調べ

- | | | | | |
|-----------|------------|-------------|------------|--------------|
| 1. 北海道大学 | 9. 東京工業大学 | 17. 東洋大学 | 25. 福井県立大学 | 33. 神戸大学 |
| 2. 東北大学 | 10. 電気通信大学 | 18. 武蔵野大学 | 26. 山梨大学 | 34. 神戸芸術工科大学 |
| 3. 会津大学 | 11. 一橋大学 | 19. 明治大学 | 27. 名古屋大学 | 35. 広島大学 |
| 4. 筑波大学 | 12. 東京都立大学 | 20. 立教大学 | 28. 三重大学 | 36. 山口大学 |
| 5. 埼玉医科大学 | 13. 慶応義塾大学 | 21. 早稲田大学 | 29. 京都大学 | 37. 高知工科大学 |
| 6. 千葉大学 | 14. 専修大学 | 22. 横浜市立大学 | 30. 大阪大学 | 38. 長崎大学 |
| 7. 帝京平成大学 | 15. 中央大学 | 23. 神奈川工科大学 | 31. 関西大学 | |
| 8. 東京大学 | 16. 東邦大学 | 24. 金沢工業大学 | 32. 関西学院大学 | |



Principia I・II 活動報告「いまこんなことをしています」

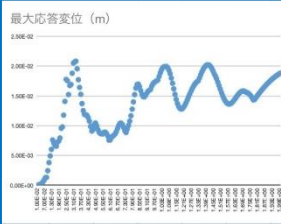
今年度のポスターセッションは、2023年3月17日に横須賀市文化会館でPrincipia I・II同日開催が予定されています。現在1、2年生は探究活動の最盛期を迎えていると思います。そこで、「普段は知らない、仲間のプリン」からヒントや力を得て自分の研究成果に繋げてください。今回、6名のSSH委員が活動内容や意義を伝えてくれました。

NTT人間情報研究所



私は「野球の優れたバッティングフォームの確立」というテーマで研究しています。研究データから自分を客観的に分析することによって、よりスイングスピードが早いものを手に入れることができるのではないかと考えて、研究を始めました。野球の研究は主に、自分の他に3人の仲間と協力して行なっています。私たちの仮説は、「体重移動が行われて、インパクトの瞬間に前足に60%乗れば、一番スイングが鋭くなる」です。この仮説を検証するために、今は研究所と校内の両方で、最新のVR機器を用いて動画を撮影し、データを分析しているところです。難しいこともたくさんありますが、良いかたちを残せるように精一杯頑張ります。SSH委員1年4組 亀山康成

防衛大学校



私は「地震防災」をテーマに研究を続けています。地震の揺れでどのように建物が揺れるかを目的に研究しており、現在は過去に起きた大きな地震を分析して、地震動の特性や、それに伴う建物の固有周期との関係について研究しています。横須賀にも「三浦半島断層群」と言われる断層があり、30年以内の地震発生確率が最大で11%と、全国的に見てもかなり危険な部類の断層が私たちの地下に眠っているのです。この断層がいつ地震を起こすかは誰にも分かりません。少しでも被害を抑えるためにも、私たちが住む地域にどのくらいの影響が出るのかというデータを得るために、この地震防災というテーマで研究を進めています。SSH委員2年7組 下里浩太

港湾空港技術研究所

私は「微動観測から揺れを調べる」というテーマをもとに研究活動を進めています。ここで言う微動とは常時微動のことで、常時微動とは常に動いている地面の小さな揺れのことを指します。人間は感じるのが難しいですが、この小さな揺れを調べることで、建物や地盤の揺れやすさの特徴を調べることができるのです。この研究の目的は、横須賀周辺の揺れの特徴を調べることで得たデータを、様々な形で地震対策に活かしていく事です。横須賀付近には活断層が複数存在するため、得られるデータも貴重なものになると考えています。現在は十分な量のデータを集めるために微動観測機を用いて複数地点で計測を行っている最中です。SSH委員1年5組 秋本想太



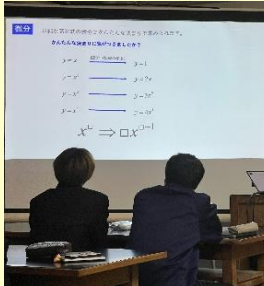
校内研究① 心理学

私たちのグループは「若者の自己肯定感」をテーマに研究しています。研究方法は、横須賀高校の生徒を対象にアンケートを行い、結果をグラフにまとめて考察するというものです。当初、私たちは、「SNSを使用する時間が長いほど、自己肯定感は低くなる」という仮説をたててアンケートを取りました。しかしその結果は、「SNSを長い時間使用する人ほど自己肯定感が高くなる」というものになりました。そこで私たちはSNSに限らず、兄弟構成などの要因も調べていこうと思いました。アンケート結果がまとまり次第、自己肯定感が低くなりやすい人の特徴や、改善策等を考察したいと思います。SSH委員2年4組 江澤実希

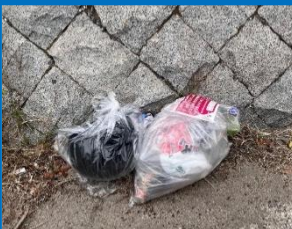


横須賀テレコムリサーチパーク

横須賀テレコムリサーチパーク (YRP) では無線についての研究を行い、その中でも携帯電話の無線通信について研究をしています。YRPは国内屈指の研究開発を推進されており、とても内容の濃い研究を行うことができます。前期はグループごとに研究したいテーマを決めて、そのテーマに沿って研究をし、全体で研究内容の発表を行いました。後期からは全体で無線の研究を行っています。無線の研究をしていくにあたり、数学や理科の知識が必要であるため、先日の活動では研究機関の先生が私たちがまだ習っていない範囲の授業をしてくださりました。その知識を活かして無線の研究を進めていきます。SSH委員1年7組 長山漣



校内研究② 環境



私たちのグループは校内研究で「人の目が多いか少ないかで落ちているゴミの量に変化があるのか」というテーマで研究を行っています。比較対象として久里浜海岸と平作川周辺を指定しています。またゴミの量を調べると同時に10月末に久里浜海岸の清掃を行いました。その際、平作川周辺のゴミの量も実際に現地へ行って、調査しました。その結果、平作川周辺では比較的多い量のゴミが多く、久里浜海岸でのゴミの量は比較的小さい傾向にありました。そして、人の目が少ない方がゴミを捨てやすい環境を作るということもわかりました。この結果をもとにして私たちが立てた仮説と比較し考察を行っていきたいと思っています。SSH委員2年3組 川崎蒼斗



PDA神奈川県高等学校即興型英語ディベート交流大会3位獲得！



2022年11月5日、「令和4年度PDA神奈川県高等学校即興型英語ディベート交流大会」が実施されました。これは即興型英語ディベートを通じて、生徒の英語による実践的コミュニケーション能力の向上を図るとともに、様々な国際舞台で活躍できる人材の育成を図ることを目的とする大会です。参加校は学力向上進学重点校及び学力向上進学重点校エントリー校（横浜翠嵐、横浜平沼、横浜緑ヶ丘、横浜国際、光陵、希望ヶ丘、川和、柏陽、多摩、横須賀、平塚江南、鎌倉、湘南、小田原、茅ヶ崎北陵、相模原、厚木、大和）の18校でした。本校から英語部の6名（2年7組中野遥さん、2年2組鈴木彩花さん、2年6組平野亜実さん、1年6組岸綾馬さん、1年1組鈴木里沙さん、1年7組安田泉さん）が参加し、見事に3位を獲得することができました。今回、代表して部長の中野遥さんに話を聞きました。

私自身、横須賀高校に入学しようと考えたきっかけが「PDA英語ディベート大会で横須賀高校が優勝した」という記事を読んだことでした。そのため、今回の3位という結果はとても嬉しく思っています。この結果を残せたのは、日々の部活での練習の成果と個人個人の努力によるものだと思います。英語ディベートをする上で大切なのは「論理的思考力」とそれを伝える「英語力」だと私は思っています。部活の練習はほとんどが実践練習なので、その二つを部活のみで補うことは不十分であり、日々の英語の勉強やニュースや新聞を確認するなどといった知識の収集の習慣がなければそれらは身につかないものです。二年生はもちろんのこと、一年生に関しても確かなディベート力を持った状態で本番に挑むことができました。本番では全三回戦のうち三回戦目で勝つことは出来ませんでしたが、それもまた新しい反省や戦った相手のディベート術を知ることができた良い機会として、更なるスキルアップを目指したいと思います。2年7組 中野 遥



Prin I 「JA よこすか葉山」発信

今年度から「JA よこすか葉山」が本校 SSH 事業に協力して下さっており、現在 Prin I の9名が農薬やマーケティングの研究中です。1年5組春原さんのコメントです。



私たちはPrincipiaの研究で、JA よこすか葉山さんの協力のもと、研究を行っています。私たちのグループのテーマは「農園のPRと人員問題」です。研究の目的は、農業に興味をもつ若年層を増やすことで、そのために今の農業のPR効果を調べ、新しいPRの仕方を自分たちで考えようとしています。研究の意義は日本の農業というものが無くならないように

することです。そのためには若い世代の力が必要不可欠だと感じました。私たちの研究手法は大きく分けて二つあります。そのうちの一つは、実際に農園を訪れることです。12月15日、私たちは津久井浜観光農園に伺い、いちごの生産農家の方々にお話を聞かせていただきました。そこではPRの工夫、コロナ禍の乗り越え方、利益の生み方など、農業の難しさややりがいなどを聞かせていただき、お客様を笑顔にする工夫をされていることを知りました。私たちの研究は決して1人で行える規模ではなく、JAの方々、農園の方々はもちろんのこと、横高の先生方や生徒の皆さんの協力も得て研究を進めることができます。これからも感謝の気持ちを忘れず研究に励んでいきたいと思ひます。1年5組 春原 壯多



Prin II 「防衛大学校」発信

Prin II 「防衛大学校」のイオンエンジンAチームは日々主体的・協働的に活動し、一丸となって課題解決に邁進しているチームです。2年4組三浦さんのコメントです。



私たちは研究機関の先生のご指導のもと、自分たちの手で「イオンエンジン」というものを製作するために日々研究を進めています。今年度は校内で2回実験を行い、計画性、チームワーク、行動力の大切さなどを学びました。しかし、思い通りに進まないことも多く、特に苦労したのは、適切な物品や実験方法を考えて納得してもらえるような説明をすることです。グループ内では製作過程や必要な材料、道具を把握しているつもりでしたが、いざ他人に説明しようとする、と、わかりにくくなってしまったり、根拠が曖昧で説得力に欠けてしまうことが多々ありました。このような内容を見ると、そこまで細かくこだわる必要は無いのでは、と感じるかもしれませんが、実験は未知の世界であり、どんなハプニングが起こるか全てを予想することは困難です。なので、安全性、信頼性を保証するためにはもちろんのこと、何よりも実験の成功確率を少しでも上げるために、より具体的かつ客観的に計画を練ることがとても重要になってくると思います。Prin II もあと少しですが最後まで駆け抜けていきたいです。2年4組 三浦 望実





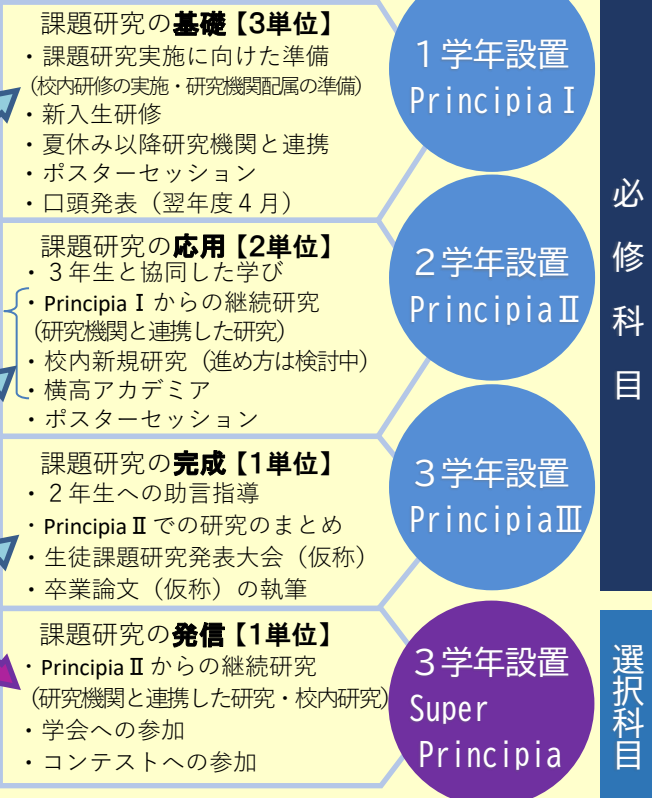
2023 年度始動、「新 Principia」

2023 年度から Principia が大きく変わります。皆さんが新しい Principia を理解して 3 年間の活動をトータルで考えられるよう、新旧の概要やポイントをここに詳しく掲載します。自分たちは「何がしたくて」「どのように研究するのか」を明確にし、研究計画と進捗状況を把握しながら、自分たちだけの Principia を創り上げてください。

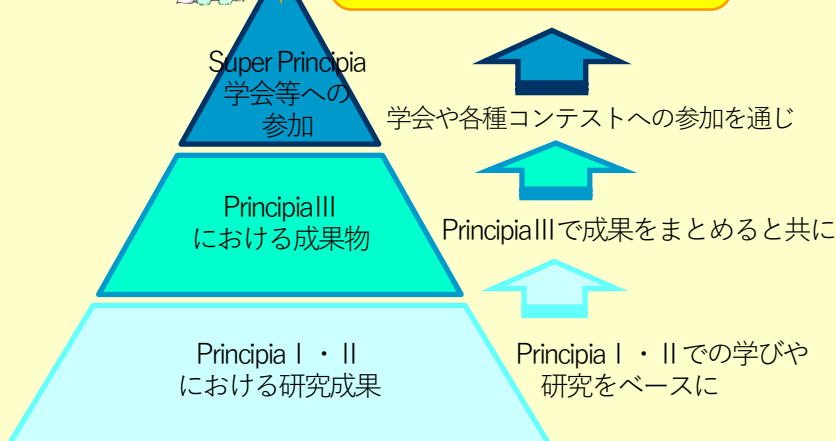
≪ I 期目 (旧) の Principia の概要 ≫



≪新 Principia の概要≫



これからの日本の科学的発展を牽引する研究者となる意欲を持つ人材に成長



『現 PrinIII (75 期生) 選択者から 1、2 年生へ』

自分たちの PrinIII は、皆さんにとっての PrinIII + Super Principia にあたるのかもしれませんが。研究の目的がなければ道に迷い、ゴールを見失います。また、道半ばで途方に暮れるとき、心を突き動かす原動力や情熱を燃やす火種となるものが必要となります。ぜひ研究に対する意識をしっかりと固めて突き進んでください。

自分は「チーム力」が肝だと思っている。頻繁に対話し、意見交換を行ったことで個々の考えがまとまっていった。次第に信頼関係が深まって、個の集まりから一つの束になれたことが最高だった。「コミュニケーション」や「協働」を大切に一生の宝を得てください。

ポイント (Principia I、II)

- ・Principia I、II は必修履修です。
- ・Principia I では事前研修・研究機関リサーチともに充実させます。(4 月～6 月)
- ・縦の繋がり強化のため、1、2 年生が協働する場面があります。
- ・Principia II では校内研究をさらに充実させます。
- ・アカデミア麻布大学獣医学部が登場します。
- ・横浜市立大学附属病院との連携が始まります。

ポイント (Principia III、Super Principia)

- ・Principia III は必修履修、Super Principia は選択履修です。
- ・Super Principia は原則時間割の枠外で活動します。
- ・Principia III は、1、2 年次の研究のまとめとして論文を作成します。
- ・3 年間のまとめとして、7 月に発表大会があります。
- ・Super Principia は、外部での発表が単位履修の条件になります。目指す学会やコンテストは相談の上、決定します。



勇往邁進！外部発表へ挑む 76 期生・77 期生（3 月実施）

75 期生に続き、76 期生・77 期生も外部発表するグループが多数出てきました。Prin I・II の経験が必ず Prin III、Super Principia に活きます。探究活動は自分で道を拓くもの。自分たちの手でどんどんチャンスを掴もう！

2023 年電子情報通信学会総合大会

2023 年 3 月 7 日（火）芝浦工業大学 大宮キャンパス
Principia II YRP 所属（2 グループ参加）

①参加者：2-1 瀧川賜恩

テーマ：X 線による建築物透過無線通信の研究

②参加者：2-6 長江俊介、2-7 佐々木楓、2-7 後藤優真

テーマ：磁界共振方式ワイヤレス電力伝送の 50Hz 商用電源利用の研究

【大会について】若い世代の研究のうち、すでにまとまっているものではなく、着手段階・途中段階の研究を対象。ジュニア・学生と企業や大学の研究者が交流する場を提供し、研究コミュニティへの初参加をサポートする。

電子通信情報学会 MVE

2023 年 3 月 15 日（水）～17 日（金）沖縄県青年会館
Principia I NTT 人間情報研究所所属

参加者：1-4 亀山康成、1-6 小川諒太郎、1-7 近藤大輝

テーマ：野球の緩急をつけたピッチングに対する打撃フォームの分析 —VR とモーションキャプチャによるシステムを用いて—

【学会について】電子情報通信学会は電子情報通信技術の専門分野を幅広くカバーする学会で、メディアエクスペリエンス・バーチャル環境基礎研究会 (MVE) はその中の一部門。今回、若手研究者の発表の場のために設定された萌芽セッション（ショートペーパー）に参加する。

第 19 回日本物理学会 Jr. セッション

2023 年 3 月 18 日（土）オンライン開催

Principia II YRP 所属

2-7 菅野泰誠、2-7 富永凜愛、2-4 三上昊大、2-5 蓮池輝

テーマ：地震予知で日本を救おう！！

—地磁気観測による地震予知の可能性の研究—

【大会について】Jr. セッションは、高校生等が日頃の研究成果を発表する場であり、研究の発展と心の成長に寄与することを目指すものである。本学会の会員との議論により物理学者の考え方・研究の進め方に触れることができ、また、他校の生徒・引率の先生方との交流により、研究の視野を広げることができる。

かながわ探究フォーラム

2023 年 3 月 26 日（日）神奈川県立総合教育センター
Principia II 横須賀市自然・人文博物館所属

参加者：2-2 本松航

テーマ：ユビナガコウモリの生態調査と食餌昆虫調査

【目的】スーパーサイエンスハイスクールや理数教育推進校等における探究活動の成果発表を通じて、先進的な事例を広く共有し、参加生徒の探究の過程に関する理解を深め、研究意欲や知的な好奇心を喚起するとともに、参加校の生徒に求められる課題解決力、創造力、プレゼンテーション能力等のより一層の向上を図る。

※本企画は他のグループも参加する予定あり。

令和 4 年度 SSH 成果発表会

2023 年 3 月 14 日（火）県立厚木高校新体育館

Principia II 校内研究②所属

参加者：2-6 盛内結心

テーマ：くずし字回り道解説手法の使用と有用性について



【目的】探究活動の成果の発表と質疑応答をとおりて、表現力の育成と探究活動の成果に対する理解を深める。

【形式など】厚木高校の SSH 成果発表会（1、2 年生参加、全 2 年生発表）は午前のポスター発表の部と午後の口頭発表の部で構成される。横須賀高校の生徒は午前のポスター発表の部に、「他校参加枠」で発表を行う。

サイエンスフロンティア FIRST

2023 年 3 月 18 日（土）Y S F 内 和田昭允記念ホール他
Principia I アーティスト村所属

参加者：1-3 桑原奏羽 他（調整中）

テーマ：染色の抗菌作用が細菌の増殖に与える影響

【目的】本校および国内（海外）招待校の研究発表を通して理数分野における課題研究の成果を共有し地域におけるサイエンス教育の中核となる科学フォーラムの場を形成する。／生徒の研究成果や SSH 重点枠での国際共同課題研究の成果について英語での発表を積極的に導入し研究活動における英語コミュニケーション力の向上を図る。／研究発表や意見交換を通して海外の研究者や他校とのネットワークを広げ研究レベルの向上を図る。

令和 4 年度探究活動発表会

2023 年 3 月 24 日（金）県立横須賀高校セミナーホール

Principia I の優秀グループより選出予定

【目的】各学校における探究的な学習の成果を共有することで、各県立高等学校等の教育力の向上を図り、より一層、質の高い教育の提供に資する。生徒が探究的な学びを通して考えたことを、根拠に基づき説明し、質疑応答を通して学びを深めることで、知的探究心を高め、問題発見・解決能力の育成を図る。

【形式・方法】すべての県立高等学校及び県立中等教育学校の代表生徒が参加（横須賀三浦地区は 10 校）。ポスター発表（10 分程度）+ 質疑応答（10～15 分程度）で開催。

表彰

1 月 21 日（土）～22 日（日）@横須賀市文化会館

・みんなの理科フェスティバル

いいね大賞【NTT 陸上研究チーム】（Principia I）

1 月 28 日（土）@総合教育センター

・かながわ部活アクティブ賞【科学部】

・令和 4 年度神奈川県立学校の児童・生徒表彰

【三浦半島の貝殻研究チーム】（Principia III）

【ハマダンゴムシ研究チーム】（Principia III）

2 月 2 日（木）@朝日新聞社より郵送で授与

・第 20 回高校生・高専生科学技術チャレンジ（JSEC）

入選【三浦半島の貝殻研究チーム】（Principia III）



令和4年度 Principia I・II ポスターセッション 令和5年3月17日実施

Principia I ポスタータイトル

番号	研究機関名	ポスタータイトル
I 101A	JAXA	通信衛星のコストカット
I 102B		テントを応用した宇宙展開技術
I 103C		レゴリスから宇宙機器を守る
I 104D		ソラメ折りの応用！？ 月で暮らすための宇宙空間応用展開物
I 105A		効率的な掘削のための方法
I 106B		他天体における土壌掘削技術について効率的に土壌採取を行う方法
I 107C		抵抗が小さいシールを自分たちで作ってみた
I 401C	JAよこすか 葉山	未来の担い手 自然農業
I 402D		農園のPR
I 201D	NTT人間 情報研究所	短距離走のクラウチングスタートにおける腕と足の体重配分による違いが加速に与える影響の調査
I 202A		競泳の陸上トレーニング器具を用いたフォーム分析～モーションキャプチャとスイムスマーターキットによるシステムを用いて～
I 203B		弓道における肩の詰まりを改善するため射型の調査
I 204C		～モーションキャプチャと表面筋電図を用いて～
I 205D		グリップの持ち方における筋肉の時系列変化についての調査
I 206A		～モーションキャプチャと筋電図センサによるシステムを用いて～
I 207B		バスケットボールの跳躍時の体の使い方による高さの調査
I 208C		野球の緩急をつけたピッチングに対する打撃フォームの分析
I 209D		～VRとモーションキャプチャを用いて～
I 210A		バレーのスパイクにおける助走の歩数の違いがスパイクジャンプの高さに与える影響の調査
I 301A		～モーションキャプチャと床反力によるシステムを用いて～
I 601B		ジャンプの高さ、初速、力積の関係から考える高く跳り負けないヘディング
I 602C		格闘技における注意対象に応じた距離感や姿勢変化の調査
I 602C		ースポーツチャンバラを題材に～
I 602C		バドミントンのスマッシュにおける力の入れ方がシングルスピードに与える影響の調査
I 301A	アーティスト村	草木染めの抗菌作用の効果を高める方法について
I 601B		陶器で横須賀を盛り上げる
I 602C		横須賀の土地のものを使用した染物
I 214A	横須賀 テレコム リサーチ パーク	ブラックホール
I 215B		特殊相対性理論について理解しよう
I 216C		5G, 6Gから考える私たちの未来
I 306B		海洋ごみ
I 416B		骨と健康
I 417C		人類最強プロジェクト
I 509A		嘘の方程式～嘘の見抜き方～
I 403A	横須賀市自然 ・人文博物館	目指せ新境地開拓！虫とコウモリの関係
I 404B		三浦半島の植物の多様性と分布の決定要因
I 405C	観音崎 自然博物館	Mr.エビと貝図鑑を作ろう！
I 406D		海藻の役割はでっかいそう！
I 501A	京急建設(株)	京急建設 従業員を確保するには？
I 502B		建設業のワークライフバランス
I 407A	慶應義塾 大学SFC	家庭菜園の土の効率的利用と再利用
I 408B		よりよい関係を目指して
I 503C		農業における作業の効率化
I 510B	地域貢献に向けた第一歩	横須賀PR～中央・汐入編～
I 511B		横須賀の人口減少雇用から考える～
I 512D		横須賀を、もっと豊かに
I 513A	花王(株)	ペットボトルキャップの無限の可能性
I 302B		微動から横須賀市の揺れの特徴を調べる
I 303C	港湾研	海面水位の変化を調べる
I 304D		くずし字を翻刻しよう
I 603D	県立金沢文庫	前頭葉機能の差は何が要因なのか
I 409C		生理の貧困をなくそう
I 504D	神奈川県立 保健福祉大学	虐待を自認していない子どもを虐待から守るには
I 505A		歯科医師の視点から見る児童虐待
I 108D	神奈川 歯科大学	法医学におけるミトコンドリア (mt) DNA鑑定
I 109A		DIY メタバース
I 211B		大人むし歯になりやすい口の中、なりにくい口の中の再現実験
I 410D		災害時の歯科記録の有用性
I 411A		DNAを越える！
I 412B		DNAと指紋を使わない個人識別
I 413C		児童虐待の早期発見を目指す
I 506B	電中研	ソーダ石灰は地球を救う～Make It Possible With Sodalime～
I 305A		ヨコスカの地上絵
I 110B	防衛大学校	GPSで描く現代地上絵
I 212C		新しい機能を持つナノ粒子生成に向けて
I 213D		ゆで卵を溶かそう～アルカリ金属塩を用いたゆで卵の可溶化と再生～
I 414D		Toward Effective Eradication Of Cancer ～癌の効果的な撲滅に向けて～
I 415A		武力紛争とテロ発生時における国民保護
I 507C		これからの日本の安全保障
I 508D		

Principia II ポスタータイトル

番号	研究機関名	ポスタータイトル
II 201D	アカデミア 横国大	AIアーティストと人間アーティスト
II 301C		水素をたくさん作ろう！！
II 302D		理想の木材
II 101C	アカデミア 総研大	磁場と電流の関係と磁場の空間分布
II 102D		音楽転調プログラム
II 202A		GPSの仕組みと再現
II 203B	アカデミア 総研大	水量計を設置して節水を促す
II 401D		コオロギの喧嘩
II 402A		本州の蝶と沖縄の蝶の比較
II 403B	アカデミア 麻布大	イヌが飼い主と見知らぬ人に見せる反応の違いの解明
II 404C		ウイルスの感染力の見える化
II 103A		図書館X線無線通信の研究
II 104B	横須賀 テレコム リサーチ パーク	磁界共振方式ワイヤレス電力伝送の50Hz商用電源利用の研究
II 105C		地震予知で日本を救おう！
II 204C		アイシンジャインを追ってビッグバンのその先へ
II 205D	横須賀市自然 ・人文博物館	離れた場所から作物を育てるには…
II 303A		天気予報の誤差を限りなくゼロへ
II 304B		黒潮による水温と魚種の関係
II 405D	横須賀市自然 ・人文博物館	コウモリの謎に迫る!!～ユビナガコウモリの生態調査～
II 501B		展示物鑑賞者の動向分析
II 601A		自然歴史の資料の発信方法
II 305C	花王(株)	Where should we put recycling boxes?Part.2
II 306D		おかえりブロックと意識の関係
II 502C		デザインで回収量は変わるのか？
II 503D	京急サービス (株)	沿線地域の発展
II 504A		「寝」られる”市町村になるには
II 406A		明晰夢で楽しく生きよう
II 505B	校内研究①	色と性格
II 506C		怒りの心理
II 507D		生徒の理解が深まる授業とは
II 508A	校内研究②	自己肯定感の差異
II 509B		じゃんけんの必勝法
II 510C		人相学的に研究してみた！図任の印象は本当なのか？！
II 307A	校内研究③	私たちの周りのゴミについて
II 511D		雇用形態の変遷について
II 512A		経済を商品から考える図日常にあるものの価格の変動を考える～
II 513B	校内研究④	横須賀市の地産地消
II 514C		横須賀市の課題と魅力の発展
II 602B		ファーストネーションの偏見
II 603C	校内研究⑤	日本人が好ましく思う顔の変遷
II 604D		くずし字回リ道解読手法の使用と有用性について
II 605A		ピラミッドの空気の謎
II 206A	校内研究⑥	～The perfect House～図風に耐え抜く家
II 308B		貝類から見る環境の変化
II 407B		トウキョウサンショウウオの最適なエサを探そう！
II 408C	校内研究⑦	味噌汁で栄養をとろう
II 515D		部員を増やすために
II 516A		食と色の関係
II 606B	校内研究⑧	千と千尋の神隠しの謎
II 106D		打球の飛距離をのばすには
II 107A		回転と球種図打たれない球とは～
II 207B	校内研究⑨	絶対に勝てるサブ
II 208C		簡単に足が速くなる！？
II 209D		アオアシ～効率のよい練習方法～
II 210A	校内研究⑩	サッカー～クリスティアーノ・ロナウドのようなシュートが撃ちたい～
II 409D		バレーボールの技術向上図to achieve a higher jump!～
II 607C		売れる音楽をつくるには？
II 608D	校内研究⑪	見たくなるホラー映画の特徴
II 609A		絵画を多角的な視点から研究する
II 610B		泣ける映画の方程式
II 611C	校内研究⑫	「推し」について
II 612D		INSTANT MUSIC ～楽曲の印象要素～
II 613A		日本と外国の絵画に違いが生まれたのはなぜか
II 614B	校内研究⑬	人気曲の共通点はなにか
II 615C		ディズニーが長年愛される秘訣～アラジンについて～
II 616D		心に残る文章とは
II 617A	校内研究⑭	イントロが消えちゃう！？
II 410A		神奈川県立
II 411B		横須賀高校生の身体活動量
II 412C	神奈川 歯科大学	高校生の食事
II 413D		骨芽細胞を移植し、形成した骨組織を観察しよう。
II 108B		食生活が癌細胞に与える影響
II 109C	校内研究⑮	液中通電法によるTiナノ粒子の作成
II 110D		衝撃力学による食感の物理的解明
II 111A		イオンエンジンを作る ～100円ショップの製品を使用し、オリジナルのイオンエンジンを作成する～
II 112B	防衛大学校	大気吸込式イオンエンジン～金星の最適高度の検討～
II 113C		100均の材料でイオンエンジンを作ろう！！
II 211B		イオンエンジン搭載衛星を用いた金星への軌道計算
II 212C	防衛大学校	光の点滅が植物に与える影響
II 213D		液晶と光の制御
II 214A		磁性イオン液体の水による融点変化
II 215B	防衛大学校	four numbers game -無限多角形編-
II 216C		Four Number Game
II 217D		Four numbers game ～min～
II 218E	防衛大学校	地震防災図北武断層の活動に起因した地震被害に関する検討～
II 219F		
II 220G		

【編集後記】SSHNEWSは2020年10月に創刊し、7・8月号を含む年11回の発行を重ねて今月で28号となりました。横高のSSHを内外に広め、皆さんの探究活動がさらに活性化することを願ってスタートしたものです。仲間の研究、先輩の活躍、学会や大学の情報等が大いに刺激となったでしょうか？取材を担当してくれたSSH委員の皆さんどうもありがとう。さて、1号からの紙面を読み返すと横高SSHの変遷がよく分かります。良いうねりが起こっていますよ、ぜひビッグウェーブに繋がってください。横高生が世界に羽ばたく記事を期待しています！（SSHNEWS 担当：中丸）